

農商工連携による「黒ぼくりゾート大山高原ブランド」創造・全国発信プロジェクト （鳥取県伯耆町）

大山山麓の豊かな土壌（黒ぼく）に育まれた地場産品について、生産から販売まで一貫して行う体制を整備し、消費者ニーズに合った高品質なモノづくりを実現。これを「売れる商品」としてブランド化する組織的な取組によって、地域経済の活性化を図る。

※「黒ぼく」とは、大山周辺の黒くきめ細かい肥沃な火山灰土のこと



平成21年度の主な取組

「黒ぼく」で育つ
地場産品

- ① 認定審査の実施、PRグッズの作成によりブランドを確立。商品競争力を強化。
- ② カタログ・ネット等による販売体制の整備と都市部へのPRによる、販路の拡大。
- ③ 研修会や交流会等による人材育成と、農商工連携による事業化体制の整備を図り、市場を見据えた生産体制を確立。

地域経済活性化

平成22年度以降の展開

常設の売場を確保、周辺他町の特産品関係団体との共同事業などによる広域連携の実施、観光事業との連携など、事業の拡充を進めていくとともに、協議会を会社法人に移行して、自立できる組織として本格展開する。

東郷池～ロハスな水際空間創出プロジェクト （鳥取県湯梨浜町）

観光客増を課題とする温泉地など、東郷池周辺地域の活性化に資するため、水に恵まれた地域の特色を活かした「癒しの水際空間」「ロハスな地域」といったイメージや事業を創出するとともに、公共アクセスの整備を図ることにより地域を再生する。



平成21年度の主な取組

- ① ロハスを題材とした研修会やシンポジウムとともに、松崎駅周辺商店街を支える人材の育成など、東郷池周辺を一体的に活性化させる対策の検討。
- ② ロハスな料理の教室や、しじみ採りといった親水イベントなど、東郷池を核として集客を図る事業の実証実験。
- ③ ポンポン船航路や周遊バスなど、東郷池を回遊する公共交通の運行に係る実証実験により地域への便益を考証。

平成22年度以降の展開

21年度の取組を踏まえて、ロハスな水際空間という地域イメージを定着させるとともに、親水イベントや賑わい創出イベントなど、それまでの検討で得られた成果を見極め、新たな事業展開や、ロハスビジネスとしての自立化を具体的なものとする取組に深化させる。

我が国で最も高濃度のラドン放射能泉を活用し、温泉医療施設と旅館等の連携により滞在型の温泉療養を提供するとともに、地域の特色を活かした体験プログラムを開発し、健康増進のための長期滞在型温泉地として活性化を図る。

ラドン温泉を活用した滞在型温泉療養



平成21年度の主な取組

- ① ラドン温泉を活用した温泉療法を提供する5泊6日の滞在型温泉療養を実施。
- ② 宿泊価格や食事の有無など、温泉療養に対応した滞在型宿泊プランを開発し、旅館等の受け入れ体制を整備。
- ③ ウォーキングや伝統文化の体験教室など地域の特色を活かし、魅力的な滞在期間中の体験プログラムを開発・実施。

平成22年度以降の展開

ラドン温泉の医療的効用についてホームページ等で広く周知し、温泉医療施設の改修を進めていくとともに、旅館・ホテルにおける保養型の宿泊プランや、地域の特性・特産物を利用した体験プログラムを充実させ、収益事業として確立する。

ニューツーリズムの広域的多面的展開による中山間地域の活性化

(おうなん
邑南町を中心とした島根・広島県境域)

中山間地域の資源を活用したニューツーリズムをローカルビジネスとして定着させ、これを収入源に過疎・高齢化した集落の生活支援・集落運営支援を一体的に実施することで、中山間地域の集落機能を再生し、持続的に維持するモデルを構築する。

ニューツーリズムの開発、総合窓口設置



平成21年度の主な取組

- ① 地域資源を活用してニューツーリズムのメニューを開発し、広域的・継続的に実施するための総合窓口を設置。
- ② ガイドブックやポータルサイトを製作し、海外旅行者も含め広く情報を展開。
- ③ 小規模高齢化集落でニーズのある生活支援、集落運営支援を専門的に行う事業体「集落支援センター」を立ち上げ。

平成22年度以降の展開

ニューツーリズムを広域的・多面的に展開し、修学旅行等の誘致を目指すとともに、その収益を基に運営する集落支援センターを中国地方の中山間地域各地に配備し、中山間地域における持続可能な集落運営のあり方を検証し、普及・拡大を図っていく。

新たなコミュニティビジネス「まるごとサービス」による津和野町の元気再生
～中山間地域の生活・生業維持と雇用の創出・拡大による定住促進～

(島根県津和野町)

過疎や高齢化が進み、地域の担い手が不足している中山間地域において、住民の日常生活を支えるあらゆるサービスをワンストップ、有償で担うコミュニティビジネスを立ち上げ、生活利便性の向上と地域雇用の創出を図る。

津和野町の市街地



「まるごとサービス」

- 生活サービス
- 集落生業維持サービス
- 環境整備サービス
- 行政サービス



移動サービス(イメージ)



農産品の収穫(イメージ)

平成21年度の主な取組

- ① 移動や買物、掃除、介護など、住民の日常生活を支えるサービスや、集落の維持管理に必要なサービスなどを担う体制の整備。(「まるごとサービス」運営組織の試行)
- ② 町内全域に整備されているケーブル通信を活用した注文システム等の仕組み検討と、サービス提供業務の実証実験。
- ③ 事業の本格展開に向けた「まるごとサービス」法人化の準備。

平成22年度以降の展開

「まるごとサービス業」の法人化、雇用創出・拡大に伴うU・Iターン者の定住促進、サービスの情報提供・注文を効率化するための地域通信システムの構築など、事業基盤を整備し、中山間地域における新たなコミュニティビジネスモデルを確立する。

地域資源と地域コミュニティとの融合による交流人口拡大プロジェクト

～神話が息づく雲南「歴史と食」を感じる滞在・交流型観光の創出～

(島根県雲南市、奥出雲町、飯南町)

歴史・神話にまつわる観光資源、優れた食品を生み出す企業など、地域の潜在力を活かし、風土記に記される温泉や「食の拠点づくり」といった活動を軸に、滞在・交流型観光を進め、雲南圏域における交流人口の拡大とコミュニティの活性化を目指す。



薬湯の拠点「湯村温泉」



ヤマタノオロチ伝説を活かした観光メニュー



乳製品を活かした新商品づくり



食の拠点「農家レストラン」

平成21年度の主な取組

- ① ヤマタノオロチ伝説などによる観光商品・ルートの発掘。薬湯(湯村温泉)と食の旅の拠点を軸にした観光メニューづくり。
- ② 農商工連携による特産品づくりや、産直活動による販路開拓など、生産者の意識向上によるコミュニティの活性化。
- ③ 「人材養成塾」の開催による、観光ホスピタリティの向上や雲南の食の販路拡大を支える人材の育成。

平成22年度以降の展開

21年度の取組を踏まえ、道の駅やトロッコ列車等の活用による広域観光を展開するとともに、ブランド認証制度の創設による雲南ブランドの確立、出雲神話ガイド等の人材育成とそれを担うリーダーづくりなど、事業の拡充による雲南圏域の活性化を図る。

清流日本一高津川の源流“吉賀町”を元気にする「山づくり・人づくり」プロジェクト (島根県吉賀町)

2年連続で日本一に輝く高津川の清流を育む一方で、荒廃が進んでいる森林(私有林)を保全するための新たな仕組みを構築するとともに、地域の自然を守る「将来の担い手」づくりにより、適切な森林整備と人と自然が調和した地域づくりを実現する。

100年サイクル森林活用プロジェクト



平成21年度の主な取組

- ① 町内森林の大部分を占め、所有権が混在する私有林を共同所有化(団地化)し、境界にとらわれず超長期で整備・活用していく仕組みについて検討。
- ② 小・中学生とその親を対象に、里山の暮らしを体験する「山の学校」、有機野菜づくりや郷土料理を体験する「食の学校」を開校。吉賀の自然を愛しむ人材を育成。

平成22年度以降の展開

森林100年サイクル活用プランにより、団地化によって建設業との連携が容易になった森林の保全に資するハード事業を実施。体験学校は、「川の学校」や「田舎暮らし体験ツアー」等を付加、里山フィールドスクールとして開校する。

「最先端水素技術でめざす新たな神話づくり」出雲再生プロジェクト

(島根県出雲市および周辺地域)

次世代エネルギーの研究開発が進む出雲地域において、より経済的・効率的な水素エネルギーの実用化に向けた取組を進め、企業や研究機関等の誘致などによる地域経済の活性化や、これをシーズとした新たな観光産業の育成を目指す。



平成21年度の主な取組

- ① 水素生成技術の実用化への取組とともに、「水素エネルギー活用ビジョン」を策定し、関連企業の誘致や、企業・地域における経済効果の測定。
- ② 水素エネルギーの活用について、地元企業や住民に対し普及啓発。地域社会におけるプレゼンス確立と付加価値の向上。
- ③ 水素エンジン漁船による漁業や観光遊覧船のデモ運転など、環境をテーマにした新たな観光資源としての活用を検討。

水素技術を介した産業振興、地域再生

平成22年度以降の展開

水素エネルギー活用ビジョンに基づき、その実用化に向けた取組をさらに進めるとともに、水素エネルギーへの取組を核とした環境先進都市・出雲の名を幅広く認知させ、企業・研究機関等の誘致、新たな観光産業の育成、観光メニューの具体化などにより、地域経済の活性化に資する。

エコ島力で国際交流を目指す白石島の活性化

～環境とコミュニティビジネスで自立可能な地域社会へ～

(岡山県笠岡市(白石島))

高齢化と人口減少が進む瀬戸内の離島、白石島において、交流人口の拡大と島の活性化を図るため、県から移管された国際交流施設を戦略的に運営し、地域の「エコ資源」を活用したコミュニティビジネスを立ち上げ、島の自立存続のための仕組み構築、人材育成を目指す。



白石島



「国際交流ヴィラ」の戦略的経営



「体験型エコツーリズム」の開発



「桑の葉茶」の開発・商品化

平成21年度の主な取組

- ① 経営ノウハウを学ぶ研究会開催により、「国際交流ヴィラ」の戦略的経営と人材育成を実現。
- ② 交流人口を増加させるため、島のエコ資源を活用した「体験型エコツーリズムプログラム」を開発。
- ③ 島に自生する桑の木を耕作放棄地にも拡大し、「桑の葉茶」をエコ農産物として開発。

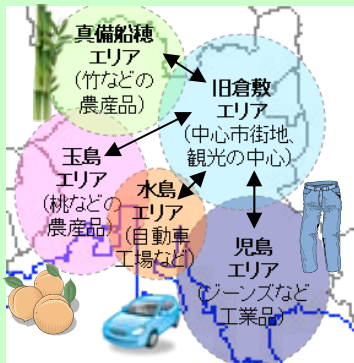
平成22年度以降の展開

体験型エコツーリズムプログラムと連携した宿泊メニューを展開するなど、「国際交流ヴィラ」の運営方法を工夫するとともに、「桑の葉茶」を島の特産品として商品化し、販路の確保・拡大によって、島の経済的自立と交流人口の更なる拡大を実現する。

くくる・くらしき産学官民コラボプロジェクト

(岡山県倉敷市)

滞在時間は短いが多数の観光客を集める旧倉敷エリアと、その周辺エリアとを、大学を中心に連携した多様な主体が、特産品や観光スポットなどで結び、各地域をそれぞれ回遊する観光メニューを創出することにより、倉敷市全体の経済活性化を実現する。



旧倉敷エリア(観光拠点)と周辺地域を回遊する観光メニューの創出



美観地区内アンテナスペースにおける特産品の販促

特産品の高付加価値化
地域の担い手育成

平成21年度の主な取組

- ① 学生とのコラボレーションによる周辺地域の魅力ある地場産品の発掘や新商品の開発を試み、特産品として高付加価値化。
- ② 倉敷・美観地区にアンテナスペースを設置。①で見出した特産品の販促等により、「倉敷市ならではの」観光需要を拡大。
- ③ ①②の主体となるメンバーに対し、まちづくり支援塾を開催。今後の倉敷市を支える人材や、地域・企業の担い手を育成。

平成22年度以降の展開

倉敷・美観地区のアンテナスペースをショップとして常設化、開発した特産品や観光メニューを全国に向けて幅広くPRするとともに、起業家支援塾を開催し、地域で持続可能な自立的取組とするための民間主導の組織を立ち上げて、地域密着型ビジネスとして展開する。

「スローライフ&スロートゥリズムエリア」創出プロジェクト

せら
(広島県世羅町)

清涼な気候、田園景観、フルーツ・フラワー農園の集積といった観光の魅力を活かし、農業、土産物の製造・加工、流通・販売・飲食などの各産業を一体的に地域の総合産業と捉え、スローライフエリアとしての「せら高原」の価値向上と、農工商業の振興を図る。

観光農園(シバザクラ)



果樹園(梨)における
農業体験



観光農園での結婚式(企画商品の例)



観光農園(ラベンダー)

平成21年度の主な取組

- ① スローライフエリアを目指した、農家民宿(ファームステイ)等の検討、実証実験。
- ② スロートゥリズムエリアを目指した、フルーツ・フラワー、特産品などの地域資源を複合的に活用した観光企画商品の開発及びモニターツアーの実施。
- ③ 地域内の多様な資源を繋ぎ、広く発信・案内する人材(地域コンシェルジュ)の養成と広域的な情報発信。

平成22年度以降の展開

実証実験を踏まえて、農家民泊や観光企画商品の定着・拡充を図っていくとともに、「せら高原」のスローライフ・スロートゥリズム事業を総合的に運営していく主体の組織化、各主体を横断的に結びつける仕組みづくりを推進し、観光客や定住人口の増加を目指す。

東広島市青少年音楽教育システム(東広島市版「エル・システム」)開発プロジェクト (広島県東広島市)

学校やコミュニティで盛んになりつつある音楽活動や市内の音楽大学をシーズと捉え、ベネズエラのエル・システム(音楽教育による人材育成システム)を範とした東広島版のプログラムを開発し、合併で多様化したコミュニティを繋ぐとともに、市民・大学・企業等の連携による新たなまちづくりを目指す。



市内中学校の演奏会



市民音楽祭の開催

平成21年度の主な取組

- ① 東広島版エル・システムを構築し、教育現場における実証実験を行うとともに、地域コミュニティ等との交流を創出。
- ② 地元大学の学生が演奏指導することにより、教育人材の育成を図るとともに、若い人材の地域への参画、定着を促進。
- ③ シンポジウムや地域合同の演奏会など、市内各主体の連携や、地域全体の一体感の醸成に向けた仕組みづくりを検討。

平成22年度以降の展開

本格展開に向けた自立的な運営主体や市立オーケストラなど、新たに「音楽のまち」を担う主体の検討、設立を目指すとともに、市内全域で誰もが楽器演奏を学べる体制・環境を構築するなど、青少年の健全育成にとどまらず、音楽を基軸とした豊かで誇りの持てる地域社会を創造する。

虹色のしまなみコットン・プロジェクト (広島県尾道市、愛媛県今治市)

しまなみ海道に沿う各地域において、伝統的な文化・産業である「綿」を基軸に、その継承と新たな地域イメージを創出するとともに、「綿」を活用したコミュニティビジネスを構築・展開することにより、地域を繋ぎ、持続的かつ自立的な活性化を創造する。



天然染料で染めた綿



帆布工場

平成21年度の主な取組

- ① 海道沿いの各地域で、それぞれの特徴である色によって「綿」を染め上げる天然染料(柑橘、桜、杜仲茶など)を掘り起こすための調査を実施。
- ② 地域住民や学生を対象に、「綿」という伝統文化・産業を体験するワークショップを開催するとともに、成果を幅広く発信。
- ③ ワークショップを拡充する人材育成とともに、①の天然染料を新たな資源と捉えたコミュニティビジネスを検討。

平成22年度以降の展開

事業の実施体制を整備し、ワークショップの拡充や、掘り起こした染料によって染めた製品の商品化事業など、コミュニティビジネスの本格展開とともに、企業や大学等との連携やインターシップによる人材育成などにより、広域的な地域経済の拠点としての地位確立を目指す。

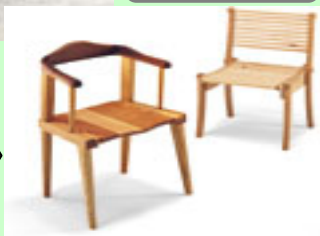
中国山地における新しい「木」ある暮らしの創造と地域交流促進: 広島県府中市を中心に (広島県府中市・石州街道出口地区)

地場産業である「府中家具」の高い技術を活用し、間伐材を用いて新商品を開発するとともに、木のある暮らしを再評価・PRして、地域ブランドとして展開することで、間伐材の需要増と供給体制を確立し、低迷する地場産業全体の底上げを図る。



間伐材調査の様子

間伐材を用いた商品開発の一例



地場産業において、積み上げられた技術を新たな商品開発に活用

平成21年度の主な取組

- ① 「府中家具」の技術を活用した、間伐材の新商品を開発することによる、間伐材の需要増と供給体制の確立。
- ② 古い町並みと木造住宅の暮らし良さを再発見、間伐材木工品の展示・公開事業の実施。
- ③ 中国山地の農山村集落と都市を結ぶ生産・消費と交流のネットワーク開発と石州ブランドの展開。

平成22年度以降の展開

地域組織の連携による府中家具の新商品の事業化、木造住宅地区の住みやすさPR活動の展開、石州街道ネットワークの組織化及び石州街道ブランド事業化を通じて、農林産物の集積地・加工地としての石州街道・出口地区の定着を図る。

スローツーリズムを核とする「湯来のまち」再生プロジェクト

(広島県広島市佐伯区湯来地区)

都市近郊でゆったりと時間を過ごせる温泉地、広島の奥座敷というべき湯来の特色を活かし、スローツーリズムを核としたビジネスモデルを開発するとともに、担い手の育成を戦略的に行うことで、自立的に魅力向上を図る体制を構築、地域産業を振興する。

湯来地区の町並み

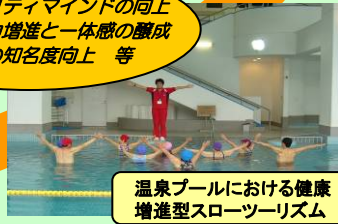


湯来温泉



○ホスピタリティマインドの向上
○地域の活力増進と一体感の醸成
○湯来地区の知名度向上 等

湯来特産品の例



温泉プールにおける健康増進型スローツーリズム

平成21年度の主な取組

- ① 湯来地区を拠点として活動する人材及びこれを支援する地域住民によるサポーター育成のための「湯来観光地域づくり大学」の設立。
- ② ①で育成した人材が収入を得て活動できる場としてのスローツーリズムビジネスモデルの開発及び実証実験。
- ③ 湯来特産品のブランド化と湯来地区の知名度向上に向けた取組の推進。

平成22年度以降の展開

本格的なビジネス展開に向けて、大学で育成した人材の活用促進及びスローツーリズムの商品化を行うとともに、湯来特産品の継続的なPRによる販売促進を行い、湯来地区の認知度向上を図ることにより、「住んでよく、訪ねてよい、湯来のまち」の実現を目指す。

世界へ繋がる“港ヒロシマ魅力発信・賑わい創出”プロジェクト

(広島県広島市南区宇品地区)

広島港に寄港する外航クルーズ船の観光客をターゲットに、広島の魅力を最大限に体感してもらうツアーやイベントを実施し、広島を世界に発信するとともに、港を中心とした賑わいの創出により、港周辺の市街地や広島湾全体を含めた地域に活力を取り戻す。



外航クルーズ船



おもてなし対応



湾内クルーズ



神楽によるイベント

平成21年度の主な取組

- ① 海運会社の協力の下、広島湾内の地域（原爆ドーム、宮島、呉、岩国、大竹など）を海から巡るツアークルーズの実証実験。
- ② レンタサイクルや商店街との連携等により、宇品など港周辺を観光客が回遊する仕組みを構築し、市街地の賑わいを創出。
- ③ ふ頭周辺の倉庫群等を活用し、神楽など日本文化を紹介するイベント等を企画し、広島の新たな観光を演出。

平成22年度以降の展開

広島港を振興する取組を収益性あるものとして自立化させる仕組みを構築し、広島や周辺地域の魅力の再発見に繋げることで、広島の新たな観光ツールとして定着させるとともに、港周辺の市街地の活性化を引き出し、「港ヒロシマ」という国際的なプレゼンスを確立する。

今しか出来ない周防大島の耕作放棄地再生 (山口県周防大島町)

高齢農家・不在地主の増加による耕作放棄地の拡大に対応するため、モデル地区を選定し「ありたい土地利用」につき地域住民の合意形成を行うとともに、地域管理会社の設立準備を行うなど、地域住民ぐるみで取り組む活動モデルの構築を図る。



耕作放棄地の現状

地域ぐるみの活動



水田として再利用

『ありたい土地利用』



花畑として観光名所に

平成21年度の主な取組

- ① モデル地区を対象として、土地利用マップの作成と、地権者・住民・自治会による「ありたい土地利用」の合意形成。
- ② 雇用確保や耕作放棄地の活用を目的とした地域管理のための株式会社の設立準備。
- ③ 地域管理会社を継続的に運営するための体験ツアーや地場産品販売等収益事業の育成。

平成22年度以降の展開

活動を町全体に広げ、「ありたい土地利用」の合意形成とそれに向けた活動を発展させるとともに、設立準備を進めている地域管理会社を発足させて、雇用の確保と移住者の受入を実現し、継続的な生活環境の整備を目指す。

「道の駅」を核として地域の自立(Jiritu)・循環(Junkan)・持続(Jizoku)を目指す「萩・3Jプロジェクト」 ～7地域が地の資源をいかして元気になるために～ (山口県萩市)

市内6箇所にある「道の駅」を活用し、1駅逸品(1品)開発事業や低コスト物流モデル・地消システム構築の実証実験を行うとともに、地域を牽引する人材を育成することで、高齢化の進展に対し、自立し、循環し、持続する地域経済の確立を図る。



特産品・体験プログラムの開発



農産品の集約拠点



道の駅を地域の核として活用

平成21年度の主な取組

- ① ワークショップ等により、各地域に潜在する地域資源を特産品や体験プログラム等に商品化。
- ② 道の駅における農産品の1次集約拠点機能を強化し、流通コストを低減するとともに、地域食材のレストランを展開し、地消促進を実験。
- ③ ①②の事業展開を通じて、地域を牽引する人材を育成。

平成22年度以降の展開

育成した人材がプロジェクトリーダーとして地域を牽引し、1駅逸品運動など地域資源の商品開発を継続・発展させ、都市部におけるPRイベントや商談会等PR・販売ルートの拡大を検討することで、地域経済と中山間地域の活性化に結びつける。